

平成21年度 函館短期大学 子育て研究所 研究業績

1	子育て研業績番号	第1号
2	氏名	木村 美佐子
3	項目	著書 研究論文 ○学会発表
4	タイトル	幼児における描画の発達についてー頭足人の出現までー
5	記載誌・学会名	北海道教育大学函館学校教育学会第15年回
6	発行年・発表年月	2009.10
7	概要	なぐりがき（スクリブル）から始まる幼児の描画活動は、始点と終点 が重なり合った円を描くことが可能になった頃から飛躍的に発展してい き、やがて4歳頃の特徴的な絵とされる「頭足人」が現れる。スクリブ ルから「頭足人」の発生にいたるまでの幼児の描画発達の過程を明らか にし、その発生の要因と出現時期を考察する。

1	子育て研業績番号	第2号
2	氏名	畑 千鶴乃
3	項目	著書 研究論文 ○学会発表
4	タイトル	マザーグループにおける子どもへの保育に関する一考察 ー大阪府東大阪市立子育て支援センターの取り組みに着目してー
5	記載誌・学会名	日本保育学会第62回大会 発表論文集 p.425
6	発行年・発表年月	2009.5
7	概要	一連の児童福祉制度改革により、各市町村に要保護児童対策地域協議会 を立ち上げることが要請された。これにより、地域レベルでの親子双方 へのケアの在り方が問われている。しかし一部の市町村では、虐待が危 惧される、強い育児不安を抱く親と、その子への支援を以前から実施し ていた。本研究では、虐待が危惧される親子へ、子育て支援センターや 保育所がいかにかわるべきか、支援の実態を捉えることを目的とし、 現在の地域協議会としての親子支援モデルへの発展性を探るため、先進 自治体である大阪府東大阪市の取り組みに着目し、子へのケアの在り方 を明らかにしたものである。

1	子育て研業績番号	第3号
2	氏名	新沼英明 植月美希 小岩眞智子 木村美佐子
3	項目	著書 ○研究論文 学会発表
4	タイトル	実習前の学生に見られる不安傾向と生活との関連
5	記載誌・学会名	函館短期大学紀要第36号
6	発行年・発表年月	2010年
7	概要	<p>本研究は、今後の学生生活の支援方法の確立と、学生の内面への働きかけ方の基礎的知見を得るため、学生が現在抱えている不安傾向と生活習慣及び学校生活満足度という3つの手がかりから、短期大学2年間のうちの初期段階における人間関係と不安との関連について幅広く把握することとした。それにより今後の学生生活を支援する体制づくりの足掛かりにしようとするものである。また本研究は、養成校（2年課程）の教育の在り方のうち、特に学生の内面への働きかけ方の策定及びリカレント教育などの卒業生支援体制作り等についての基礎的知見を得ることもねらいの一つとした。</p> <p>その結果、学生の普段示す特性不安は、保育士・幼稚園教諭として現場に出た際に予測される状態不安と正の相関が見られたものの、その相関は弱いものであった。従って、学生が将来保育者になった際には、現在の不安傾向にかかわらず、社会への適応性についてモニタリングする必要性が示唆された。なお、学生の現在の不安傾向（特性不安）は、Q-Uで明らかになった被侵害得点とやや強い正の相関を示していることから、学生が現在示している不安傾向は短大内における人間関係のマイナスの側面の影響を強く受けていることが示唆された。</p>

1	子育て研業績番号	第4号
2	氏名	新沼英明 植月美希 小岩眞智子 木村美佐子
3	項目	著書 研究論文 ○学会発表
4	タイトル	保育学科学生の不安傾向と学校生活及び生活習慣との関連
5	記載誌・学会名	全国保育士養成協議会第48回研究大会研究発表論文集, 134-135
6	発行年・発表年月	2009.9
7	概要	<p>本研究では、保育学科学生の現在の不安傾向と生活習慣及び学級生活満足度の関連について検討した。これは、短期大学2年間の養成課程における初期段階の学生の生活習慣と不安との関連を把握し、今後の学生生活を支援する足掛かりにしようとするものである。また、本研究は、養成校（2年課程）の教育の在り方のうち、特に学生の内面に働き掛ける関わり方の策定及びリカレント教育などの卒業生支援体制作り等についての基礎的知見を得ることをねらいとした。</p> <p>結果、本調査からは、学生の学校生活及び生活習慣と現在の特性不安の間に強い関連があることが示された。保育士養成校としては、学生の不安の軽減を図るために、その生活習慣にも注意を払う必要性が示唆されたと言える。</p>

1	子育て研業績番号	第5号
2	氏名	○畑 千鶴乃・中山徹
3	項目	著書 ○研究論文 学会発表
4	タイトル	要保護児童対策地域協議会を通じて保育所入所に結びついた被虐待児の生活実態に関する研究—大阪府東大阪市が用いる在宅支援アセスメント指標から—
5	記載誌・学会名	こども環境学研究 Vol.5, No.3, 50-57, こども環境学会
6	発行年・発表年月	2009.12
7	概要	<p>本研究は、要保護児童対策地域協議会で、在宅指導として保育所入所による支援が必要と判断された家庭を対象に、その生活実態を把握することを目的とした。分析は在宅支援アセスメント指標を用いた。結果、乳児期に保育所入所し就学前まで生活保障が確保できた被虐待児たちは、ネグレクトや併存する虐待環境下におかれ、日々の生活が極めて深刻な状況に陥っている実態が把握された。同様に保護者も、家事・育児が十分に果たせない状況に陥り、親子双方への地域生活支援の必要性が確認された。結論として在宅ケアの一方策として、被虐待児の発達拠点として保育所を位置付けること、保護者の生活を支える地域プログラムの開発など、虐待環境下にある親子に向けた地域協議会の機能強化が必要であることが示唆された。</p>

1	子育て研業績番号	第6号
2	氏名	木村 美佐子
3	項目	著書 ○研究論文 学会発表
4	タイトル	幼児における描画の発達過程について—頭足人の出現まで
5	記載誌・学会名	学校教育学会誌第16号
6	発行年・発表年月	2010.3
7	概要	<p>なぐり描き（スクリブル）から始まる幼児の描画活動は、始点と終点が重なり合った円を描くことが可能になった頃から飛躍的に発展していき、やがて4歳頃の特徴的な絵とされる頭から直接足が出ている「頭足人」が現れる。これは国や文化が異なっても同じように見られるものである。本論ではスクリブルから「頭足人」の出現にいたるまでの幼児の描画発達の過程を明らかにし、描画技術の発達をふまえて「頭足人」の発生の要因と出現時期を考察する。</p>

1	子育て研業績番号	第7号
2	氏名	○新沼英明（分担執筆） 川原佐公 古橋紗人子・編著
3	項目	○著書 研究論文 学会発表
4	タイトル	赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」の実践力
5	記載誌・学会名	「13章 社会・国は乳児保育をどうとらえているの？－乳児保育の制度－」「14章 子育て支援事業と乳児保育－現代社会・地域の子育て家庭の実態－」 ケーススタディ
6	発行年・発表年月	2010.3
7	概要	本書は保育士養成課程における「乳児保育」のテキストとして使用することを企画意図として出版されたものである。その分担執筆者のひとりとして、子育て支援施策を中心に、現代の子育て支援の現状と課題について解説した。